

別記様式2-2号

視 察 研 修 等 報 告 書



令和7年6月13日

坂井市議会

議長 佐藤 寛治 殿

会 派 名 創 政 会

代表者名 田 中 哲 治

1. 日 時 令和7年5月12日（月） ～ 5月14日（水）
2. 視察研修先 (1) 琉球アルファドライブ「ナゴノバ」
 沖縄県名護市宮里1004番地
 (2) MAL 食堂
 沖縄県那覇市首里鳥堀町1-24-2
 那覇市社会福祉協議会
 沖縄県那覇市金城3丁目5-4
 (3) 豊見城市役所
 沖縄県豊見城市宜保1丁目1-1
3. 視察研修内容 (1) スタートアップ支援、次世代人材育成について
 (2) 子どもと地域をつなぐサポートセンター運営について
 (3) こども未来基金について
4. 参加者 前田嘉彦、伊藤聖一、前川徹、
 鍋嶋邦広、廣瀬陽子、林豊夏 6人
5. 内容詳細

◆ 1 日 目

- (1) スタートアップ支援、次世代人材育成について

nagonova-ナゴノバ-は、株式会社アルファドライブの沖縄拠点である琉球アルファドライブが、コミュニティ・パーク「coconova」- ココノバ -を「nagonova」- ナゴノバ -としてリニューアルオープンし運営している。

nagonova では、レンタルスペース・ギャラリー・スクール・Bar・コワーキングスペースや、日常的なイベント・ワークショップの開催している。nagonova のコミュニティスタッフが市民の新しいアイデアやチャレンジをサポートしながらイベントが行われている。

また、創業相談窓口を開設しており、地域の人たちのビジネスアイデアや企業への、第一歩を後押ししている。全国の中でも唯一名護市のみが対象となる経済金融活性化

特別地区の税制では、最大 40%の所得控除をはじめ、税額控除、特別償却など創業者にとっては魅力的な税制が整っている。

運営するスタッフは、沖縄出身者、地域を愛して移住したメンバー、そして沖縄への深い思いを持つ地域外のメンバーが集まっている。

◆ 2 日目

(2) 子どもと地域をつなぐサポートセンター運営について

・那覇市内の子ども食堂（MAL 食堂）を視察

MAL 食堂は、沖縄の一般的な所謂食堂と言われる飲食店を運営しながら、午後のアイドルタイムに、子ども食堂として地元の子供達に開放し、居場所を提供している。365日いつでも来られる体制で、休日は朝からでも来れるようにしていて、子ども同士が勉強を教え合っているとのこと。運営において行政からの補助金は一切なし。子ども未来チケットという、子ども達が、MAL 食堂で食事をするときに利用する食券を、一般の大人が寄付してあげる仕組みになっている（1枚 300円）

・那覇市社会福祉協議会を視察

子どもと地域をつなぐサポートセンター「糸」について説明を受けた。子ども食堂や学習支援などの活動を実施しているボランティア団体や自治会、NPO などの支援団体をサポートし、効果的な子どもの貧困問題対策や地域づくりに取り組んでいる。現在那覇市内には74カ所の子どもの居場所があり、「なは子どもの居場所ネットワークMAP」には、分かり易い地図と利用案内が掲載されていた。

◆ 3 日目

(3) こども未来基金について

豊見城市の「こども未来基金」は、子どもや子育て世帯を取り巻く課題に対して、安定的・持続的に支援を行うことを目的として設置された基金である。設立の背景には、少子化が進む中で、子育て家庭の経済的・心理的負担を軽減し、「子どもを育てやすいまち」を目指すという市の強い意思があった。初めて条例として提案されたのは令和2年だったが、その際は「活用の具体性が乏しい」として市議会で否決。しかし、その後、事業内容や財源の見通しを具体化したうえで再提出され、令和3年3月に可決、令和4年4月に正式に施行された。

こども未来基金の財源は、市の一般財源からの繰り入れを基盤とし、ふるさと納税による寄附や市内外の個人・企業からの寄附などによって成り立っている。これらの財源は、特定の年度の一時的な施策ではなく、継続的に子ども関連施策に充てられるよう設計されている。

実際にこの基金は、学校給食費の一部負担による保護者支援、学習や習い事などの教育支援、子どもの医療費助成、ひとり親世帯等への生活支援など、複数の分野で活用されている。たとえば給食費については、物価高騰の影響を受けた時期には、数ヶ月間にわたり全額免除されるなど、柔軟な対応が行われてきた。

今後は、これらの支援をより段階的・計画的に無償化へと進めていくとともに、基金の使途に関する透明性を確保するため、予算書や決算書において明示し、市民に対

しても広く情報を公開していく方針である。豊見城市では引き続き、市民や企業からの寄附を呼びかけ、財源の確保と活用の両立を図りながら、「すべての子どもに安心と希望を届ける仕組み」として、こども未来基金の充実を目指していくとしている。

6. 所見・感想等

(前田嘉彦議員)

●nagonobaーナゴノバ

スタートアップ支援次世代育成について

ナゴノバは 2 階建て診療所を改修し、多世代の人がやってきてみんなの居心地の良い場所、名護のコミュニティパークみたいな場所づくりを起点として、企業のコンサルティング、広報のお手伝いと地域の問題解決にも力を注いでいました。

企業立ち上げのお手伝いとして、新規企業に住所を貸しており、現在 12 社がこの場所を会社住所として登記しており、この場所を拠点にして世界に羽ばたいて欲しいと語っておられました。

遊びから仕事まで見つけられる場所、セミナー・イベント・コワーキングスペース・遊びの場など、多種多様な人が交流していくことで、新たな産業が興っていく気がしてこの様な取り組みが自分たちの地域にも重要と感じました。

●MAL 食堂

子ども食堂運営について

キッチン 3 人、カフェ 2 人の態勢で 365 日休みなしの運営を行っており、子どもが自由に食事しに来て、自分で歩いて帰るとのこと。学習指導は行わず、遠方の子は約 2 時間歩いてくる子もいるとのことでした。

小学生 6 年生以下は未来チケットで沖縄そばもしくはカレーライスを無料で食べることも可能で、食堂の入口には未来チケットが貼り付けられておりました。貧困な子どもたちの居場所としても位置付けながら、オーナーの思いが伝わるアットホームな子ども食堂でした。全国的に子どもの貧困対策は重要な施策のひとつですね。

他にグループホームや訪問看護、就労支援事業所等も運営しており、認定や補助金無しで実費運営しているとのことで、オーナーの社会福祉への貢献度の高さに驚かされました。

●那覇市社会福祉協議会

子どもと地域をつなぐサポートセンター運営について

那覇市では、子ども食堂や学習支援等の活動を実施しているボランティア団体や NPO などの支援団体等へサポートを行う「子どもの支援団体等へのサポート事業」を那覇市社会福祉協議会（子どもと地域をつなぐサポートセンター系）へ委託。

「子どもと地域をつなぐサポートセンター系」は、子どもの居場所（子ども食堂、学習支援）など、支援団体が必要とする支援のコーディネートや支援団体と関係団体とのネットワークづくりなどに取り組んでいました。

フードドライブ、スーパー、コンビニ、お土産店などと連携し、賞味期限切れに近

い商品を月曜日と木曜日に回収し、社協でストック・分配。本来ならば子どもの居場所の伴走支援を行いたいのだが、物資支援に追まわられているとのことでした。

小学校毎に子どもの居場所づくりをするためにはボランティアさんの協力が必要であり、補助金や寄附だけでは難しい状況とのこと。

現在、74カ所の子どもの居場所が運営されているが、運営日時や運営内容が異なっており、活動状況もまちまちの様でした。

坂井市でも放課後児童クラブの更なる充実が必要であります。

●豊見城市役所

こども未来基金について

豊見城市（当時は豊見城村）では平成10年4月1日「子どもの街」宣言を行い、「子どもが活きる街・豊見城」を目指すため、子育て環境を充実していく取り組みの具現化に取り組んでいました。

まず驚いたのは、今回お世話になった部局が、こども未来部こども応援課ということで、切れ目のない子育て支援体制の構築に力を入れていることが良く感じられました。

令和3年に「こども未来基金」を立ち上げ、個人・企業等より寄附を受け、令和4年より学校給食保護者支援事業を中心に子育て支援を行っていましたが、令和7年より県が学校給食支援を開始したため、今年是不登校児童生徒の支援や学力強化支援に多額予算が付けられている様でした。

持続可能な地域づくりでは、子育てしやすい街づくりは重要な課題であり、ふるさと納税などを活用し、子育て支援を行うとともに、共働き可能な社会づくりも重要と感じられました。

（伊藤聖一議員）

●ナゴノバ スタートアップ支援について

名護市は「経済金融活性化特別地区」の指定を受けており、創業間もない企業への投資や情報通信・観光・農業水産産業での起業に対して、優遇制度が充実していました。そのような利点を有効に活用し、起業による地域経済の活性化を目指している印象を受けました。

琉球アルファドライブの特徴は、起業する上での手続きのコンサルタントに止まらず、自らが商社的な活動をする事で、起業家の営業面での支援に積極的に関わっていく姿勢だと思いました。

坂井市でもアルファドライブと、起業支援の委託契約を結んだようなので、今後の坂井市での活動に注目していきたいと思います。

●こども食堂 MAL

沖縄は子どもの貧困率が全国で一番高く、「こども食堂」発祥の地とも言われており、貧困対策は以前から社会問題となっています。

MAL食堂の代表から様々な話を聞きましたが、代表自身が子ども時代に食事が満

足に食べられる環境に無かった経験から、「子ども達にひもじい思いはさせたくない」という強い信念を感じました。子どもたちはお金が無くても毎日ご飯が食べられる場所が有ることは、こどもたちの成長に良い影響を与えていると思います。

●子どもと地域を繋ぐサポートセンターについて

那覇市社会福祉協議会は、那覇市より委託を受けてこども食堂のサポートセンターを運営しています。那覇市では各小学校校区に一つ以上のこども食堂を目標にしており、現在74カ所の子どもの居場所があり、あと僅かで目標が達成されるようでした。

こども食堂が多くあることから必要な食材の量も多く、支援先の商店等からの回収や保管などサポートセンターの運営はとても忙しそうで、専任職員が配置されていました。

坂井市でもこども食堂等の協議会が設立されたようなので、同様のサポートセンターも必要なのではないかと感じました。

●こども未来基金について 豊見城市

豊見城市は那覇市に隣接しており、那覇市のベットタウンとして急速に人口が増えた自治体です。平成14年日本一人口の多い村から、人口要件等を満たし全国で初めて村から市へ市制施行を行った自治体です。面積も約20平方キロメートルと小さく、野々市市に似た環境だと感じました。

また、出生率の高い沖縄県の中でも、年少人口割合が20.3%と全国一高い市でもあります。

「こども未来基金」を創設し、収入には寄付金やふるさと納税、一般財源をあてて、市民アンケートなどで子育て支援施策の満足度等を調査しながら、子育て支援の充実を図っていました。計画策定のためにアンケート調査をするだけでなく、モニタリングのためにもアンケート調査を実施している事は、大変よいやり方であると感じました。

(前川徹議員)

●「nagonova-ナゴノバー」スタートアップ支援、次世代育成について

名護市のコミュニティパークを令和6年7月に承継した㈱アルファドライブ（本社：東京）の沖縄拠点である琉球アルファドライブが、創業相談窓口を新たに開設したもので、創業を検討している人、地域の人々のビジネスアイデアや起業への第一歩を後押しするための窓口となっている。産業集積の進展と企業活動の活性化を図るため税制優遇などの特区指定を受けている名護市は、テーマパークのオープンを控えていることもあり、観光地としての魅力も相まって起業の希望者が増えている。相談者にはUIターン者が多く、自治体や地元企業、国立名桜大学とも連携して起業の後押しをしている事例であった。

坂井市でも今年度、起業家支援強化事業として㈱アルファドライブと連携した起業家支援コミュニティ「Start Hub SAKAI（スタートハブサカイ）」を始動する。全国各地でのノウハウを活かした企業支援を当市でも期待したいものである。

●「MAL 食堂」子ども食堂運営について

365日、小学生であればだれでも利用できる食堂である。一般の食堂も兼ねていて、子ども食堂の運営資金は「みらいチケット」である。「みらいチケット」とは、支援者が飲食店で通常の食事代に300円上乗せして購入するチケットで、チケットは店頭に掲示板に貼られ、来店した子供がそのチケットを使って食事をする仕組みである。子供の利用は夕方5時までで、放課後に利用する児童は、学校の帰りに食事を食べたり、2階のキッズルームで勉強したりしている。

代表の青山氏は、東京で障がい児の仕事に携わった後にUターンして起業し、農園や訪問看護、障害者就労支援事業などにも取り組んでいる。子供の貧困が食育活動を通して少しでも変われることを願っており、その思いは自らの幼少期の経験からで、大人の生活困窮者も含めて、ギリギリの人たちを何とか救っていききたいという強い信念が感じられた。

●子どもと地域をつなぐサポートセンター運営について（那覇市社会福祉協議会）

那覇市内には様々な形態の子どもの居場所がある。那覇市社協は2016年から創業相談も含めた支援を始め、2020年からは「なは子どもの居場所ネットワーク」を開設し、地域と連携した開かれない居場所づくりに取り組んでいる。食事・軽食の提供、学習支援、遊び場の提供と、居場所によってできることは違っていて、開設日時や日数もばらばらだが、ネットワークをまとめるサポートセンターがフードドライブなどの活動支援や地域への啓発活動を行っている。

「地域の子は地域で育てよう」を合言葉に、市民自らが多様な活動を通して、子供たちの自己肯定感を育み、子供の権利が守られる地域を目指す取り組みは、坂井市の今後の子どもの居場所づくりに参考となるものと感じた。

●こども未来基金について（豊見城市）

平成30年の市民意識調査で、子育て環境の充実の「重要度」が最上位にもかかわらず、「満足度」は下位だったことを受けて、満足度を「60%」と設定し、令和7年度までに目標達成を目指すことにした。令和2年度以降「こども未来市民会議」とアンケートを毎年実施し、令和3年度に市民の寄付とふるさと納税で基金を設置、令和4年度から基金を一部取り崩して事業を行っているものである。

基金事業は市単独事業・新規事業・市長が必要と認める事業の3つの基準をすべてクリアしたもので、これまで「子ども食堂スタートアップ事業」「学力強化支援事業」「不登校児童生徒支援員の配置」などを行っている。当初実施した「学校給食保護者支援」は県が行うことで対象事業から外れていった。

子どもの貧困問題があり、年少人口比率日本一の豊見城市では、国や県の補助事業とならない制度の狭間にいる子供や、子育て世帯を支援することで「満足度」を高めようとしている。本市においても制度の狭間への支援という視点はとても重要で、今後の施策立案に提案していきたい。

(鍋嶋邦広議員)

●スタートアップ支援、次世代人材育成について

株式会社アルファドライブグループによる創業支援の場所となっている「nagonoba」を視察。創業支援や法人設立サポートだけでなく地域のコミュニティの場にもなっていて、レンタルスペース・ギャラリー・スクール・コワーキングスペースに、Bar まで揃っていて、正にダイバーシティ＝多様性の時代、を意識した興味深い取り組みであった。色んな人達との交流が、新しい発想にも繋がるのではないかと期待したい。坂井市に於いても、今年度計画している起業家強化支援事業において、取り入れてほしいビジネスモデルであった。

●「MAL 食堂」子ども食堂運営について

所謂、沖縄特有の食堂を運営しながら、行政の補助金なしで、自立した子ども食堂を運営し、365日休みなく子どもの居場所を提供している事に、まず感心した。子ども食堂の他に、グループホームや訪問看護、障害者就労支援事業、更に農業など重層的に事業展開しており、非常に参考になるビジネスモデルであった。ひとつの事業だけで、子ども食堂事業を行うにはやはり限界があり、大いに参考になりたい。

●子どもと地域をつなぐサポートセンター運営について（那覇市社会福祉協議会）

子どもと地域をつなぐサポートセンター「糸」について説明を受けた。

子ども食堂や学習支援などの活動を実施しているボランティア団体や自治会、NPO などの支援団体をサポートし、効果的な子どもの貧困問題対策や地域づくりに取り組んでいる。

那覇市では、地域の子は地域で育てようの理念のもと、プレーヤーとサポーターと、ボランティアの三者が、絶妙なチームワーク、ネットワークを形成し、正に地域の総力を挙げて、合理的、効率的に持続可能な体制を構築していると感じた。坂井市においても、この考えと仕組みを参考にすべきではないかと思う。

●こども未来基金について（豊見城市）

年少人口比率日本一の豊見城市は、市民の意識調査において、子育て環境の重要度は1位にも関わらず、満足度は最下位と不名誉な状況を変えるべく、平成10年に、こどもが活きる街・豊見城を目指し「子どもの街」宣言を行い、以来各種施策に取り組んできた。こども未来市民会議やこども未来基金の設置など、独自のこども改革に取り組んできた経緯を伺い、これから、こどもまんなか社会を目指していく本市にとっても、その取り組みは、大いに参考になった。

(廣瀬陽子議員)

1 日目

・沖縄県名護市

nagonova-ナゴノバー スタートアップ支援について

創業の聖地を目指し、創業相談やスタートアップ支援を行なっている。経済金融活性化特区に指定されており、税額控除など企業にとって魅力的な部分が今まで大きくPRされていなかった。沖縄県は、Uターンする人も多いが、会社を自分で作らなければ自分のやりたい仕事は見つからない現状がある。スタートアップ支援により、やりたい仕事を自分で作ることを後押しをしてくれる場所があるだけで心強いだろうと感じた。坂井市でもやりたい仕事がないと感じて都会で就職する人は多い。スタートアップ支援により、自分のやりたい仕事を自分で作ることができれば、戻ってこようと思える人も増えるし、企業の活性化にもつながると感じた。

2日目

・沖縄県那覇市

子ども食堂(MAL 食堂) 子ども食堂運営について

那覇市社会福祉協議会 子どもと地域をつなぐサポートセンター運営について

地域の子どもたちの居場所として、2016年に那覇市から委託を受け、市内18ヶ所からスタートし、現在は那覇市内74ヶ所が「なは子どもの居場所ネットワーク」に参加し、地域のボランティアの人たちが安心して笑顔で過ごせる居場所づくりに取り組んでいた。子ども食堂だけでなく、見守り、学習支援、体験活動、地域・多世代交流などが那覇市内の多くの場所で提供されることにより、子どもたちの居場所が確保されているように感じた。

現在、地区の集会所を利用し何組かの団体が日を変えて活動を行う取り組みが始まっており、子どもたちが通う場所は変わらないが、同じ場所でいろいろな活動に参加している。同じボランティアさんたちが毎日活動を行うことは、一部の方の負担も大きく続けることが大変になっていくことが考えられる。

ボランティアを始めようと思いついても、行動に移すまでのハードルが高い現状があるが、子どもと地域をつなぐサポートセンター系では、ガイドブックをお渡ししたり、立ち上げイメージシートを活用して、立ち上げまでのサポートが行われていた。坂井市でも子ども食堂をされている団体があるが、活動しようと思える方たちを応援するためにもサポート体制を整えることが必要ではないかと感じた。

3日目

・沖縄県豊見城市

こども未来基金について

平成30年に実施した市民意識調査で、子育て環境の重要度が1位であったが、満足度は下位であったことから、子育て環境の満足度60%を目標に、切れ目のない子育て支援体制の構築を目指し、市民全体で助け合い・支えあい・つながる環境づくり」を推進することを目的に事業がスタートしている。

こども未来アンケート、こどもミーティングなどでの意見を元に、こども改革推進委員会において提案事業の中から事業を決定している。「学力強化支援事業委託料」や「英語音読・プレゼン練習アプリケーション」のように学力強化に関する事業も多く、世帯収入の差など家庭環境による学力差が出ないための支援がされていた。学習支援は本市でも支援をすべきではないかと感じた。

(林豊夏議員)

○1日目

nagonova の取り組みは、まちづくりと起業支援の理想的な融合を体現していると感じました。

地域住民や移住者、起業家など、多様な人々が気軽に集い、思いを持ち寄れる空間が開かれていること。そして、それが“施設”としてではなく、“文化”として根づきつつあることに大きな価値を感じました。特に印象的だったのは、無料開放されている2階スペースの存在。誰にとっても開かれた「現代の縁側」のような場が、地域の対話や創造の起点となっていました。

さらに、起業やチャレンジに向けた支援体制が整っており、特区制度の活用や伴走支援など、単なる箱ではなく、人とまちを動かすエンジンとして機能している点に深く学ばされました。

坂井市でも、単なる支援ではなく「人が動き出すきっかけをどうつくるか」、そしてそれを地域の中でどう持続させていくかが問われていると感じます。nagonova のような“人が育ち、つながる場”は、まさにこれからの地方都市が必要とするインフラの一つではないでしょうか。

○2日目

・MAL 食堂

未来チケットによる子どもたちへの食事提供や、2階スペースを活用した「第3の居場所」のような取り組みは、まさに地域に根ざした支援のかたちだと感じました。特に印象的だったのは、こうした活動を行政の補助にほとんど頼らず、自分たちで資金を工面し、継続しているという点です。

いかに“自走”を尊重しつつ、行政として無理なく継続できる環境を整えるか——そのバランスをどう取るかが、今後の鍵だと強く感じました。

坂井市においても、地域の民間主体が生み出している支え合いの仕組みに、もっと光を当て、つながりやすくする制度設計が必要だと再認識しました。こうした現場から学び、実際の施策につなげていけるよう取り組んでいきたいと思います。

・那覇市の「子どもの居場所ネットワーク MAP」の説明を受け、地域全体で子どもを支える強い思いを感じました。食事や学習支援にとどまらず、多世代交流や体験活動まで幅広くカバーされており、「居場所」は単なる空間ではなく、心の拠り所にもなっていると実感しました。

地域に根ざした支援のあり方や、多様な団体が連携する運営体制は大いに参考になります。地域全体で子どもを支える体制づくりを、坂井市でも広げていくべきだと感じました。

○3日目

豊見城市の「こども未来基金」は、子育て施策を持続的に支えるための財源を明確に

位置づけた先進的な取り組みです。初めは議会で否決されながらも、内容の具体化と丁寧な設計を経て可決された経緯には、行政と議会の真摯な対話が感じられます。坂井市でも、単発の支援ではなく、将来を見据えた財政基盤の構築と説明責任が必要だと改めて感じました。「子どもに投資する」姿勢を明確に示す仕組みは、非常に参考になります。

7. 添付書類

◆ 1 日目

(1) スタートアップ支援、次世代人材育成について



ナゴノバ（沖縄県名護市）

◆ 2 日目

(2) 子どもと地域をつなぐサポートセンター運営について



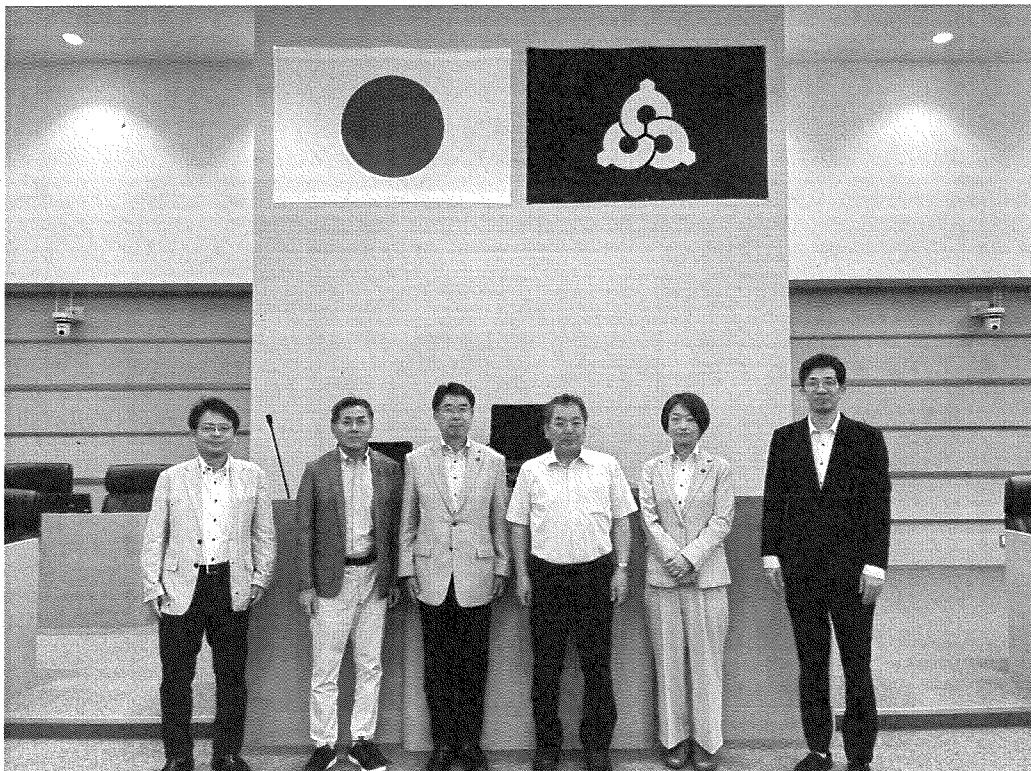
MAL 食堂（沖縄県那覇市）



那覇市社会福祉協議会（沖縄県那覇市）

◆ 3日目

(3) こども未来基金について



豊見城市役所（沖縄県豊見城市）